

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	4271101950
法人名	社会福祉法人 緑葉会
事業所名	社会福祉法人緑葉会 グループホームさくら
訪問調査日	平成 20 年 2 月 20 日
評価確定日	平成 20 年 4 月 28 日
評価機関名	社会福祉法人 長崎県社会福祉協議会

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4271101950
法人名	社会福祉法人 緑葉会
事業所名	社会福祉法人緑葉会 グループホームさくら
所在地 (電話番号)	長崎県西海市大瀬戸町瀬戸西浜郷1603-12 (電話) 0959-23-3024

評価機関名	社会福祉法人 長崎県社会福祉協議会		
所在地	長崎県長崎市茂里町3番24号		
訪問調査日	平成20年2月20日	評価確定日	平成20年4月28日

【情報提供票より】(平成20年 1月10日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 15 年 5 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	15 人	常勤 15 人, 非常勤 0 人, 常勤換算 5.7 人	

(2) 建物概要

建物形態	併設 単独	新築 / 改築
建物構造	木造 造り	
	1 階建ての	1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	15,000 円	その他の経費(月額)	光熱水費 3,000円
敷金	有(円)	(無)	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	150 円	昼食 300 円
	夕食	350 円	おやつ 円
	または1日当たり 円		

(4) 利用者の概要(平成20年 1月10日現在)

利用者人数	15 名	男性 4 名	女性 11 名
要介護1	1 名	要介護2	2 名
要介護3	5 名	要介護4	6 名
要介護5	1 名	要支援2	0 名
年齢	平均 79.4 歳	最低 63 歳	最高 96 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	浦口医院
---------	------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

西海市郊外の閑静な場所に母体法人の他施設と隣接して当ホームも運営されている。ホームの前の広いグラウンドは、利用者の散歩コースであり、運動会等各種のイベントにも利用されている。
管理者や職員は、「いくつになっても自分らしい生活をしたい」という理念のもと、ホームでの生活を自宅での生活の延長と考え、「家庭と同じような温かさで」をモットーに支援に取り組んでいる。職員は、利用者一人ひとりの生活歴を把握し、それぞれの役割や楽しみごとを支援しており、利用者との馴染みの関係を大切にしながら互いに支えあう関係づくりに努めている。また、ケアマネジャーやベテラン職員、若い職員が十分にコミュニケーションを図りながら、サービスの質の向上に努力している。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の評価結果をもとに改善への検討をして取り組んでいるが、課題の一つである運営推進会議の開催への取り組みは見受けられない。運営推進会議は基準省令にも規定されているものであり、地域密着型サービスとして地域住民等からの意見を得ながらサービスの向上を目指すうえでも積極的に取り組み、早期実施をお願いしたい。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価については、職員会議や申し送りにおいて職員が意見を出し合いながら、改善できることや反省すべき点を見出し、取り組んでいる。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議については、法人にも設置への取り組みを働きかけているが、現在開催していない。今後、積極的に開催への取り組みを行い、早急に実施できるよう取り組んでいただきたい。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	これまで家族からの意見や苦情は特にないが、利用料等の支払いで家族がホームを訪れた時などに意見や要望を尋ねるようにしており、家族が話しやすい雰囲気づくりにも心がけている。今後はホームだより等を作成し、情報提供を行いながら家族が不安を抱くことがないよう対応していきたいと考えている。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	ホームが位置する地域は住民が少ないこともあり、自治会等との交流はないが、夏祭りやペーロン大会などの際に地元の人々と交流を図っている。また、母体の障害者施設やデイサービスの利用者とは頻りに交流を図っている。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	ホームでの生活を自宅での生活の延長と考え、利用者一人ひとりの生活歴を生かし、本人がしたいことなどの希望を受け止めて、「いくつになっても自分らしい生活がしたい」という理念を掲げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員、管理者はともに、「家庭と同じような温かさで」をモットーに、利用者の立場に立って利用者本位の支援をすることを全員で共有し、実践している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	ホームが位置する地域は住民が少ないこともあり、自治会等との交流はないが、夏祭りやペーロン大会などの際に地元の人々と交流を図っている。また、母体の障害者施設やデイサービスの利用者とは頻繁に交流を図っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価については、2ヶ月に1回の職員会議や申し送りにおいて、職員同士意見を出し合いながら取り組んでいる。また、外部評価でも課題となっていた運営推進会議については、引き続き課題として早急に取り組むたいと考えている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	法人の事務局において実施への取り組みが行われていないため、運営推進会議を開催していない。早期に開催できるように進めたいと考えている。	○	地域密着型サービス事業所の基準省令(平成18年4月施行)85条において、利用者サービス等報告するとともに、外部からの意見や助言等を聞く機会として運営推進会議を設けなければならないと明記しているものであるため、早急に取り組み、定期的に会議を実施することが求められる。

長崎県 グループホームさくら(西海市)

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市全体の事業所同士の意見交換会において、行政とも話し合いをしており、サービスの質の向上に努めているが、市担当者からの直接の情報提供などはない。	○	運営推進会議を早急に開催するとともに、市担当者から積極的に関わってもらえるように、ホーム側から積極的に情報提供したり、相談をしたりして働きかけることを期待したい。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	運動会や夏祭り等の行事の案内は行っているが、文書による利用者の日頃の様子などの報告は行っていない。毎月利用料支払のためにホームを訪れる家族には、その際に報告しているが、ホームを訪れることができない家族や利用者が病気等の場合は電話で連絡を行っている。	○	利用者家族に向けて、定期的に状況報告を行うためにホーム便りを作成したり、それぞれの利用者家族が知りたいことについて情報提供できるように、家族の希望を聞いたりして、家族がより安心できるような取り組みを期待したい。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族に対して、意見や希望を言ってもらえるように心がけ、職員から積極的に聞くようにしている。これまで不満や苦情等は特にないが、家族から意見をもらったときは職員で話し合い、取り組みについて家族へ伝えるようにしている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	利用者との間に馴染みの関係性が築かれているので、異動は最小限に抑えるようにしているが、やむを得ない異動や離職があった場合は、利用者へのダメージを与えないように職員間でフォローするようにしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画を立て、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ホーム内でも研修会を行っており、ほとんどの職員が参加している。外部の研修については、出張として参加できるようにしており、できるだけ新任職員が参加できるように配慮している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	2か月に1回市内の医療法人が実施している認知症等の研修や勉強会に参加させてもらい、他事業所の職員等と情報・意見交換を行い、サービスの質の向上に取り組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	これまでの生活歴を把握するとともに、食事や家事など日常生活リズムを把握しており、職員と一緒に家事などを行い、そのリズムを崩さないように支援している。ホームの雰囲気に徐々に馴染み、安心できるように家族とも相談して支援している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	行事の準備や調理等の家事をしてもらうなど、利用者一人ひとりのできることをお願いすることで、利用者が一方的に介護される立場になるのではなく、ともに支えあう関係づくりに努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	それぞれの生活歴を把握して、一人ひとりの楽しみや喜びを引き出せるような働きかけに努めている。また、利用者の表情や言動から伝えたいことを理解するよう努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者一人ひとりの担当職員を決めており、月2回の勉強会において職員間で話し合いを行い、面会時に聞き取った家族の意見も取り入れながら、それぞれに介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月に1回カンファレンスにおいて状況を検討し、定期的に見直しを行っている。また、利用者の状態等に変化があった際は、職員それぞれの意見を聞きながら随時見直しを行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	母体法人と連携を図りながら支援を行っており、利用者や家族の希望やその時々々の状況に応じて、柔軟な対応に努めている。医療面においては、隣接する法人内の施設の理学療法士等に相談ができるようにしており、支援体制を整えている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に本人及び家族が希望する医療機関を確認しており、それぞれの希望する医療機関を受診できるように支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	利用者それぞれに先を見越した中期計画を立てており、職員全員で利用者の状態把握に努めている。また、かかりつけ医や家族と協議しながら方針を決めており、その方針を全員で共有しながら支援に取り組んでいる。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者のプライバシーに関わることについては、居室で話をするようにしている。また、トイレ誘導等の際にも、他の利用者に排泄を促す声かけとわからないように、用事をお願いするような声かけをするという工夫も行き、プライバシーに配慮している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日その時々々の利用者の状態の把握に努め、状況に合わせた支援を行っている。また、利用者の希望を聞きながら、できるだけその人のペースを大切にして支援している。		

長崎県 グループホームさくら(西海市)

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は、利用者に食べたいものや好みを聞きながら、できるだけ季節感のある献立を作っている。後片付けなどは、能力等に合わせて利用者も一緒に行い、食事も利用者と職員と一緒に楽しく食べている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴日は決まっておらず、毎日午後であればいつでも入浴できるようにしており、希望に沿えるように支援している。入浴に際しては、身体状況を把握するためにも職員が必ず付き添い支援している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	畑やプランター植付の草取り、水やり、収穫までを職員と一緒にするなど、生活歴や趣味を把握して、利用者一人ひとりに合わせた支援を行っている。また、リビングでは懐かしい童謡等を流している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ホームの近隣には商店がないため、通院の帰りに買い物に立ち寄ったり、誕生日等に外出したりしている。普段は、運動場へ出たり、隣のデイサービスに遊びに行ったりしている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関前がリビングになっており、常に職員がいるため午後9時迄は鍵をかけていない。隣接するデイサービス施設までは、利用者の散歩コースになっているため、利用者が一人で外出した場合も見守りながら支援している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回消防と警察の協力を得て訓練を行っており、今後は地域住民からも協力が得られるよう働きかけるようにしている。	○	火災等の避難マニュアルや緊急連絡網を、緊急時に備えてわかりやすく掲示することを期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個人記録や献立表を参考にして、摂取栄養バランスを把握している。また、利用者の嗜好品等も取り入れながら、栄養や水分が確保できるようおやつ等にも配慮している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間については、音や光の度合いをさりげなく調整し、できるだけ全員が心地よく過ごせるように留意している。また、利用者と職員が一緒に作ったそれぞれの季節ならではの貼り絵を飾り、季節感にも配慮している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、自宅で使用していた日用品や装飾品を持ち込んでもらうなどして、居心地よく過ごせるようにしている。		